

一般講演Ⅳ

座長：東名古屋病院 岡村 菊夫

15. 広汎性発達障害患児の遺尿症に
対する漢方薬の使用経験東邦大学 泌尿器科学講座¹⁾鶴風会東京小児療育病院 小児神経科²⁾○鈴木九里¹⁾、伊藤友梨香¹⁾、清水知¹⁾田中裕貴¹⁾、井本哉匡¹⁾、鶴木勉¹⁾、中島陽太¹⁾中西雄亮¹⁾、田村公嗣¹⁾、田井俊宏¹⁾、永田雅人¹⁾山辺史人¹⁾、田中祝江¹⁾、小林秀行¹⁾、永尾光一¹⁾中島耕一¹⁾、椎木俊秀²⁾

広汎性発達障害とは社会性に関連する領域にみられる発達障害の総称で、小児自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害などが含まれる。一般に、小児夜尿症は患児ばかりでなく、家族への生活の質にも大きく影響をあたえるが、広汎性発達障害に夜尿症が合併した場合、治療に難渋し、改善が難しいことが多い。すでに我々は、第27回の泌尿器科漢方研究会で、広汎性発達障害患者の遺尿症に対し、柴胡剤(大柴胡湯、抑肝散、四逆散)を使用した4症例を発表した。今回、柴胡剤の中でも、大柴胡湯を使用した同疾患患者の遺尿症について先に発表した2例に新たに3例を追加報告する。

【症例1】16歳、自閉症、注意欠陥多動症候群、知的障害男子。生来昼夜間頻尿あり、11歳時に受診。昼間排尿14回以上、夜間排尿10回以上。外来診察中も落ち着きなく動き回り、奇声を発する。時には親を叩くなどの異常行動も見られた。大柴胡湯を夕食後に内服させたところ6カ月目に、夜間排尿回数は4回と減少した。更に朝夕2回内服させたところ、昼間排尿9回、夜間は2回と著明な効果を認めた。1年6ヶ月後に大柴胡湯を中止したが、多動行動はあるものの、昼夜間頻尿の再発は認めていない。

【症例2】9歳、自閉症、注意欠陥多動症候群、てんかん、知的障害男子。生来昼夜間遺尿症あり、受診。外来診察中も落ち着きなく動き回っている。抗コリン剤で昼間遺尿改善、夜尿症の軽減を認めた。11歳時に父親の転勤後、夜尿症悪化したため、12歳時に父親のもとへ転居したが夜尿症は改善しなかった。夜間11時に排尿をさせるよう指導したところ夜尿症は週1回程度に減少した。しかし、13歳時、友人(障害児)が突然行方不明となり、その後昼夜間遺尿症が増悪した。大柴胡湯を夕食後に内服させたところ、1ヶ月目昼夜間遺尿症軽減、5ヶ月目には全く認めなくなった。1年後に大柴胡湯中止後も、昼夜遺尿症は認めていない。多動行動も落ち着いている。

【症例3】10歳、広汎性発達障害、自閉症、知的障害男子。生来夜尿症にて受診。水への異常執着あり、外来診察中も水道の蛇口をひねり流し続けて遊ぶ。注意をすると泣き叫び、自分の頭を拳骨で叩くなどの自傷行為がある。水への執着から多飲多尿となっている。抑肝散内服にて夜尿症は週1~2回程度と改善したが、冬に悪化。大柴胡湯へ変更したところ、5ヶ月目より改善傾向。冬季にも夜尿症なく、4カ月1回程度の失敗となっている。

【症例4】5歳、広汎性発達障害、先天性難聴、パニック障害の男子。生来の夜尿症にて受診。多飲多尿あり。抗コリン剤で週1回成功するようになった。抑肝散追加にて週3~4回へと改善。しかし、治療開始1年後に夜尿症が悪化したため、大柴胡湯へ変更したところ、3か月目より週1~2回失敗するだけとなった。

【症例5】12歳、自閉症、知的障害、不安症、チックの男子。毎晩の夜尿症にて受診。抑肝散、抗コリン剤で週1、2回の失敗だけとなった。14歳頃より、隣家の人気が気になるなどの強迫症状出現したため、大柴胡湯へ変更した。4か月頃より夜尿症が月0~1回程度の認められるだけとなり、強迫症状も軽減した。

以上、大柴胡湯は広汎性発達障害の周辺症状である夜尿症にも軽減させた有効な治療法の1つと思われる。